

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



7月号 発行 平成26年 7月31日



いわき地方の農林畜産物 モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の6月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物のセシウム検査結果(6月末現在)

| 1点も検出されなかった品目と検体数 | 検体の一部が検出された品目と検体数 | | | 計 |
|-------------------|-------------------|-----------------|----------|------|
| 16品目 | 1品目(※) | | | 17品目 |
| | 検出限界値以下の検体 | 基準値内で検出された検体 | 基準値超過の検体 | |
| 46検体 | 2検体 | 1検体(6.6ベクレル/kg) | 0検体 | 49検体 |

※: はちみつ

検査した17品目49検体のうち、16品目46検体全てにおいて、放射性セシウムが検出限界値以下でした。内訳は(表2)のとおりです。なお、はちみつについては、3検体のうち1検体が100ベクレル/kg以下で検出されました。

(表2) セシウムが1点も検出されなかった品目と検体数

| |
|---|
| ウメ 3、菌床なめこ(施設) 2、菌床しいたけ 2、キュウリ 3、スナップエンドウ 2、グリーンピース 1、トマト(施設) 4、ニンニク 5、タマネギ 3、ミニトマト(施設) 4、ニラ 3、ブルーベリー 2、ポイセンベリー 1、らっきょう 2、牛肉 4、原乳 5 |
|---|

6月30日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されている品目は、(表3)のとおりです。

(表3) 出荷制限及び出荷自粛品目(6月末現在)

| 制限、自粛 | 区分 | 品目 |
|-----------|----------|-----------------------------------|
| 出荷制限(9品目) | 野菜・根菜・芋類 | — |
| | 果物 | ユズ |
| | 穀類 | クリ |
| | 山菜 | たけのこ、ぜんまい、わらび、たらめ(野生のものに限る)、こしあぶら |
| | きのこ | 原木なめこ(露地)、野生きのこ |
| 出荷自粛(1品目) | 畜産物 | — |
| | 山菜 | さんしょう(野生のものに限る) |

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成24・25年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、ご確認ください。(企画部)



いわき市産の鉢物を 市民にPR



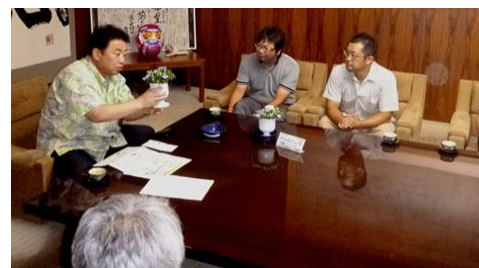
いわき市内を中心とした鉢物生産者及び流通業者で組織する「いわき花き鉢物研究会(薄葉清治会長)」は、会員の生産している鉢物を広く一般市民にPRするため、公共施設での鉢物展示を行うこととしました。

第一弾として、6月11日(水)から県いわき合同庁舎内のパスポート窓口等4カ所で「クレマチス」の展示を始めました。

また、7月4日(金)には、薄葉会長、薄葉大介副会長、下山田善裕会計が「カンパニユラ・ジューンベル」を持参し、いわき市長を訪問しました。

市長との歓談の中で、薄葉会長は「市民に市内で生産している鉢物に関心を持って頂きたい」「将来はいわきのブランド化を目指したい」と抱負を語り、市長からは「マンションなど庭がない家が多くなり、今後手軽に飾ることができる鉢物の需要が増えるでしょう。今後がんばってください」との励ましの言葉がありました。

今後2週間に1回程度の間隔で、様々な鉢花をいわき市役所、県いわき合同庁舎に展示し、市民にPRを行います。



(清水市長との歓談)



(パスポート窓口での展示)

(農業振興普及部)



松くい虫防除事業を 実施しました

今年度の「松くい虫防除事業薬剤散布」が6月5日（木）から18日（水）まで、いわき市「勿来」、「四倉・大久」、「小名浜」、「新舞子」の4地区の民有林約190haを対象に実施されました。

本事業は、いわき市が実施主体となり、市内の保全松林（将来にわたり健全な松林として維持していく松林）を松くい虫の被害から未然に防止する目的で、空中又は地上から薬剤を松林に散布するものです。

当日は、関係者が日の出前から集合し、安全な散布のための交通規制や風速及び視界確認等を行い、薬剤調合などの準備作業を行った後、夜明けとともにヘリコプターや送風噴霧式地上散布機（スパウダー）による散布作業を開始しました。

梅雨時期の実施ではありましたが各地区とも概ね天候に恵まれ、計画期間内に散布は終了しました。

なお、本事業と併せて、松くい虫の被害木を伐倒し、薬剤でくん蒸処理を行う「伐倒駆除」も実施しており、被害の予防と併せて被害の拡大防止も図っています。

地元区長や地域住民の方々、いわき市をはじめ、関係各機関のご協力により今年度の事業が無事に終了しましたことに感謝致します。



（地上からの薬剤散布）
（森林林業部）



新たなふくしまの未来を拓く 園芸振興いわき地方推進会議を 開催しました

6月9日（月）、いわき市、いわき市農業委員会、JA全農福島、JAいわき市、JAいわき中部、いわき農林事務所が一堂に会し、「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議」を開催しました。

本会議は、東日本大震災及び原子力災害の影響により、厳しい状況におかれているいわき地方の園芸産地の復興を目指して設置したものです。

会議では、「園芸産地復興計画」プロジェクト品目として掲げた、「いちご」、「ねぎ」、「日本なし」の3品目の産地の復興を図るための活動等について積極的に意見を交換しました。

共通課題として担い手の確保や生産基盤の整備が意見としてあげられ、今後、新規就農者の育成・確保や研修事業の充実、担い手への農用地集積等により、これらの課題解決を図っていくこととしました。

また、JAいわき市が発売開始した「ねぎドレッシング」など6次化商品の紹介もありました。



（今後の園芸振興について話し合い）



（発売開始したJAいわき市のねぎドレッシング）
（農業振興普及部）



農薬の誤使用による事故を未然に防止しましょう

6月10日（火）から9月10日（水）までの3か月間は、福島県農薬危害防止運動の推進期間となっています。

農薬の適正使用は、農薬を使用する者の責務です。毎年、農薬の適正使用推進運動を実施していますが、農薬の誤使用による事故は無くなっていません。

事故の主な原因は、①使用基準の誤認、②土壌への農薬の残留、③防除器具の洗浄不足、④風による飛散（ドリフト）などです。農薬を使用する際、ラベルの記載内容や対象作物、希釈倍数、使用時期などを必ず確認しましょう。

また、農薬の使用履歴を記帳することにより、農薬の誤使用を防止できますので、作業日誌とともに農薬の使用を記録しましょう。

■ 平成25年度 梨栽培日誌「防除」 「安全・安心な梨」を消費者へ届けましょう！！

| 用途 | コード | 防除資材名(品名) | 区分 | 希釈回数 | 使用量 | 使用月日 | 使用月日 |
|----|---------|-------------------------|----|-------|-------|------|------|
| | | | | | | 月 日 | 月 日 |
| 1 | 0004140 | 市内石民農資合剤 | | | | | |
| 1 | 0017535 | フルカベルフロアール 6400粒 25g | | | | | |
| 1 | 0017715 | アピルフロアール 6400粒 25g | | 10000 | 30000 | 6/13 | |
| 1 | 0020616 | インナーフロアール 6400粒 25g | | 10000 | 30000 | 6/23 | |
| 5 | 0021247 | ピキラン水粒剤 6400粒 25g | | 500 | 3000 | 6/5 | |
| 1 | 0021292 | パーサイト水粒剤80 6400粒 25g | | 600 | 3000 | 6/6 | 6/24 |
| 1 | 0014359 | サンロード水粒剤80 6400粒 25g | | 200 | 3000 | 6/24 | |
| 1 | 0013778 | サンプレート水和剤 6400粒 25g | | 800 | 3000 | 6/29 | |

(農薬使用履歴の記録例)
(農業振興普及部)



イノシシによる農作物被害をなくすために

全国的に野生鳥獣による農作物被害が深刻化しており、近年では出没地域が山間部から市街地付近へと拡大しています。今年に入り、県内では人的被害も発生しており、農作物の被害防止強化ばかりでなく、集落の協力体制による総合的な対策が求められています。

総合的な被害防止対策とは、①周辺環境整備（生活ごみの管理や草の刈払い）、②被害防止対策（電気柵等の設置）、③個体数調整（有害鳥獣の捕獲）を組み合わせることです。

個人の力には限界がありますので、集落で取組みを始めてみてはいかがでしょうか。ご相談はいわき農林事務所農業振興普及部（0246-24-6161）まで。



(安全対策として電気柵の設置を表示)
(農業振興普及部)



いわきいちご新規作付説明会を開催しました

6月25日（水）、JAいわき市夏井支店において、いちご新規作付希望者を対象に、いちごの生産開始に向けた説明会を開催しました。

本説明会は、県が策定した園芸産地復興計画に基づき、JAいわき市いちご部会やJAいわき市、JA全農福島、いわき市、いわき農林事務所が一体となり、県内有数のいちご産地であるいわき地域の生産力向上を目的としています。

説明会には、新規作付けを検討している生産者等5名が参加し、いちごの作り方や産地の状況を熱心に聞いていました。

参加者の中には、作付けに前向きな方もおり、農家での実習も検討していく予定です。いちご産地の担い手として今後の活躍が期待されます。



(関係機関より説明)
(農業振興普及部)



いわき仲買組合による 試験操業のPR活動

いわき仲買組合は、仲買業者28社で組織された団体です。試験操業で漁獲された水産物を公設市場等に出荷して、流通での反応等を調査していますが、様々な形で福島の水産物のPRにも取り組んでいます。

6月22日(日)に郡山地方総合卸売市場において開催された「郡山朝市」では、試験操業で漁獲されたメヒカリの唐揚げ(450人分)とヒラツメガニ・ガザミのカニ汁(100人分)の試食及びニクモチ(300人分)の無料配布を行いました。PR活動は7時~10時の予定でしたが、朝早くから行列ができたために6時45分から開始しました。予想以上の来場者があったため早々に品切れとなり、8時25分に終了しました。

また、7月6日(日)には、久之浜商工会青年部主催の「きらきら広場」に参加し、メヒカリ唐揚げ(300人分)とカニ汁(200人分)の試食を行いました。試食は9時~13時の予定でしたが、首都圏からの被災地バスツアーの一行が来訪するなどして客足が伸びたために試供品が無くなり、11時半で終了となりました。

どちらの活動でも来場者の反応は上々であり、マスクミに大きく取り上げられました。組合では、今後もPR活動を継続することとしています。



(郡山朝市の会場)



(手前から順に、メヒカリ唐揚げ、ニクモチ、カニ汁)



(きらきら広場の会場)



(バスツアー一行の来場時の様子)
(水産事務所)



「ふくしまから はじめよう。
『食』と『ふるさと』新生
運動」いわき地方推進本部
平成26年度総会

6月30日（月）、県いわき合同庁舎で「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」いわき地方推進本部平成26年度総会を開催しました。

昨年12月の設立以来、いわき地方の農林水産業の復興・再生に向けて各本部員が取り組んできた「食の安全・安心」、「生産再生」、「風評払拭・消費拡大」、「情報発信」の4つの運動について報告がありました。

平成26年度の事業計画については、新たな取組として親子を対象にした県産農林水産物の安全性と安心感の醸成を図る「県産農林水産物の安全・安心実感ツアー」や、水産物の放射性物質検査の見学と講演会を実施する「漁業の魅力再発見事業」などを実施することで了承されました。

また、今年度の運動展開の参考とするため、「風評被害の実態について」と題し、市場における県産農産物の入荷状況や震災後の風評払拭の取組、今後の課題などについて（株）平果 蔬菜部取締役主管志賀一義さんから事例報告をしていただきました。

最後に、本部員それぞれの立場から日頃感じていることなどを述べていただき、情報交換を行いました。農業関係者からは、関係者が連携し、農林水産物の安全性をもっと消費者へPRする必要があるといった意見がありました。

また、水産業関係者からは、モニタリング検査や自主検査を実施し、消費者へ安全性をPRしているものの、単面的に厳しい状況であることなどが報告されました。消費者団体からは、子供を持つ若い母親は安全性に対して特に敏感であるといった意見もありました。こうした意見等を取り入れ、今後の運動をより効果的に展開することを確認しました。



（総会の様子）

（企画部）



愛谷江筋はどこから
流れてくるのかな？
施設巡りバスツアー



7月1日（火）、福島県水土里を育む普及促進事業を活用した愛谷江筋愛護会主催の「愛谷江筋はどこから流れてくるのかな？ 施設巡りバスツアー（第12回治右衛門（じんえもん）の堰（せき）あじさい祭り）」が開催されました。

地域の農業水利施設について理解を深めてもらうとともに、施設の維持管理の大切さを知ってもらうことを目的として開催されたもので、いわき市立夏井小学校・高久小学校及び農業水利施設に関心のある一般参加者ら約60名が参加しました。

愛谷堰土地改良区の菅波事務局長の説明を受けながら、愛谷堰頭首工や北白土除塵機・新川サイフォン、大越藤間第二排水機場などの施設を見学するとともに、維持管理の一環としてアジサイ散歩道を歩いてゴミ拾いを実施しました。

児童らは、除塵機の働きについて「どうやってゴミを取っているの？」といった質問をするなど施設への関心が高く、自分たちを取り巻く環境や水利施設が果たす役割などの理解を深めることができました。



（愛谷江筋沿いのアジサイを見ながら
ゴミ拾いをしました）



（愛谷堰頭首工の話を熱心に聞いて
学習しています）

（農村整備部）



「ふくしま食育実践 サポーター」の応募状況

東日本大震災・原発事故以降、県内の子供達の体力低下をはじめ、食育に関連した様々な課題が明らかになる中で、県では学校や地域団体等からの要請に応じて、子供達の健康づくりと豊かな食生活の維持・確保に向けた各種の食育活動を意欲的に実践していただける「ふくしま食育実践サポーター」の募集を始めたところです。（先月号にて募集記事掲載。）

5月28日（水）から7月10日（木）までの重点募集期間には、いわき管内から個人で8件、団体で4件の登録申込みがありました。

この期間に応募いただいた県内のサポーターについては、「サポーター名簿」に取りまとめ、8月上旬には名簿の公開及び派遣要請の受付を始めることとしております。

なお、サポーターの募集については、重点募集期間経過後も引き続き行っています。

また、登録手続き等の詳しい内容は、いわき農林事務所のホームページで確認することができます。（企画部）

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1) モニタリング情報検索
 - (2) 出荷制限等一覧表



「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

（県いわき合同庁舎 3階）

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース